



かみかみもぐもぐ

給食目標

感謝して食べよう

岩西小学校 令和6年1月



冬休みが終わり、学校給食が始まりました。さて、みなさんがいつも食べている給食は、いつから始まったのか知っていますか。学校給食の歴史をみてみましょう。

●学校給食はじめて物語

明治22年



貧しい家庭の子どもたちは、子守で学校に行けなかったり、弁当を持参できなかったりしました。

雨の日も風の日も



佐藤霊山さんというお坊さんが中心となって、托鉢をしてお金を集め、給食費にあてました。

学校給食の始まり



山形県の忠愛小学校では、給食が食べられるので、貧しい子どもたちも学校で学べるようになりました。

※托鉢とは、お経を唱えて町を歩き、寄付をしてもらうこと。

●献立の移り変わり



【明治22年】
おにぎり、塩鮭
漬物



【昭和27年頃】
コッパン、ミルク（脱脂粉乳）
くじら肉、鯨肉の竜田揚げ
せん切りキャベツ、ジャム



【昭和52年頃】
カレーライス、牛乳
塩もみ（野菜）、スープ
菓物



【現在】
和食が中心で、地元の食材を活用し、食育の視点を踏まえた献立内容です。

●3年生～食育講話～

今年度3年生では、社会科に関連して豊橋市給食会主催の食育講話を実施しています。

11月は「次郎柿」、12月は「うずら卵」をテーマにJAや生産者の方々からお話を聞きました。

学んだ後「家族に話したい」、「もっと知りたい」など意欲的な声がありました。くうザラッキーとの写真♪
今月は、「牛乳」と「キャベツ」をテーマに学習します。牛乳では講話だけでなく、バター作りや模型による搾乳体験を予定しています。ぜひ、ご家庭で話題にしてみてください。

